



かつやま

4 No.665 月号



「待ってた春」

雨が多かった春休み。やっと晴れたある日に、成器西小学校のグラウンドで元気に野球をする子どもたち。遠くの山の残雪がきれいです。

CONTENTS

平成22年度予算特集

学校再編

3月定例市議会

HOT話題

平成22年4月8日発行

歴史の散歩道

(114)

元上後町の薬師堂について

「元禄頃勝山城下町絵図」(成器西小学校蔵)には、勝山三町(袋田町・郡町・後町)が描かれている。後町には寺町が形成され、その上の方には法栄寺・照源寺・浄願寺(後に芳野町に移転)・明王院などが見られる。

明王院は、薬師別当東光山延寿寺明王院の事で、「平泉寺史要」によれば平泉寺の末寺である。勝山町にあった末寺は、他にも神宮寺・光明院・徳正寺があった。別当というのは、日本古来の神と仏教信仰が融合する「神仏習合説」にもとづいて、神社に設けられた神宮寺(神社に付属して置かれた寺)のことである。

薬師別当明王院は、勝山町立ち始めの頃(天正年間)、町の鎮守として上後町に設けられ、その後、末社の稲荷社も建てられた。この薬師堂には平泉寺境内の薬師殿の本尊といわれる薬師如来(毘盧羯磨作)を安置していた。天保十二年(一八四一)当時、



西環状線脇に建つ薬師堂と薬師

如来像(左手に薬壺を持ち、右手は施無畏印を結ぶ。身の丈約17cm)、十二神将を率いる。



元禄頃の勝山城下絵図部分(成器西小学校蔵)

境内は二百歩、灯明料六反二畝二六歩、薬師堂二間四面、拜殿四尺長三間、稲荷社五尺四方、土蔵二間半×四間、氏子百軒余と記され、厚い信仰を集めていた。ところが、明治四年(一八七二)に神仏分離令によって、これらの別当寺院では仏像はじめ仏教色を取り除き、神社として存立を図った。勝山後町では、薬師堂を後町の氏神にしようとする願いが認められず、やむなく薬師如来は佐々木末吉氏がお堂を設けて祀ることで存続を図った。なお、稲荷社は神明神社に合祀している。また、明王院は宝暦年中(一七五一〜六三)に焼失し、再建されていないままになっていた。現在の薬師堂は、勝山西環状線を勝山中郵便局信号を過ぎて大野側へ進むと、すぐ左側にこじんまりとした薬師堂が見られる。今は佐々木秀一氏が守られ、毎年八月八日には「お薬師さん祭」が行われている。文化財保護委員 増田公輔

人口の動き

| | 2月末現在 | 自然動態 | | 社会動態 | | 3月末現在 | 月間増減 |
|-----|---------|------|----|------|-----|---------|------|
| | | 出生 | 死亡 | 転入 | 転出 | | |
| 男 | 12,691人 | 8 | 16 | 46 | 61 | 12,668人 | -23人 |
| 女 | 13,847人 | 12 | 13 | 34 | 54 | 13,826人 | -21人 |
| 合計 | 26,538人 | 20 | 29 | 80 | 115 | 26,494人 | -44人 |
| 世帯数 | 8,282世帯 | | | | | 8,286世帯 | 4世帯 |

編集後記
4月になってなかなか晴れ間がのぞかず、春らしくない天候が続いています。そんな春休みの貴重な晴れ間に、成器西小学校のグラウンドで元気に野球をしていた子どもたちを表紙にしてみました。遠くの残雪がとってもきれいでした。平成22年度は、中学校再編や第5次総合計画策定など、勝山市にとって大きな課題があり、新たなスタートの年度となります。市民のみならずと協議しながら市職員一丸となって取り組んでいきます。

交通事故発生状況

※高齢者=65歳以上

| 件数内訳 | 平成22年3月末 | 前年比 |
|-------------|----------|--------|
| 総件数 | 133件 | -1 |
| 人身事故(うち高齢者) | 17件(10) | ±0(+2) |
| 死者(うち高齢者) | 1人(1) | +1(+1) |
| 傷者 | 17人 | -2 |
| 物損事故 | 116件 | -1 |

4月の納税

固定資産税▶1期

納期限▶4月30日(金)

口座振替▶4月26日(月)

広告

広告のお申し込みは、秘書・広報課まで